

# 診断技術のアポリアとリスク社会論

[誘導展開型]

法学部3年 中村豪起

指導教員：鈴木晃仁

## 1. 「病気」の定義の歩み

一般的に「病気」というものは時代によって異なることはなく、過去に病気とされたものは現代社会でも病気とされると考えられている。また、過去に病気と認識された症状の原因が現代の医療技術の発達によって見つかり、その治療策が確立されることで人類の生活はより良くなると考えられている。しかし、過去に病気とされたものの中にも、現代社会では病気とは考えられていない同性愛がある。その反面、細菌が発見されることによって初めて病気だと認識されたジフテリアや腸チフスというものがある。このように、病気の定義というものは科学技術の発達やその時代における社会的背景によって変化するものといえる。また、結核は未だに確立した基準はなく、結核菌を保有する患者を治療するのか、発症した患者を治療するのかについて争いが存在する。このように、何をもって病気として診断し、治療を行うのかということは移り変わるものなのである。

同時に、個々の患者について病気か否かを診断する診断技術について絶対的なものは存在していない。確かに、診断技術の発達によって正確性は過去に比べて上がっていることは間違いない。しかし、結核を診断するツベルクリン検査などは体内に病原菌があるか否かを調べるにあたって、病原菌自体を探すのではなく、それに対する抗体があるか否かを調べるため間接的な診断だということができる。また、本当に病気である症状を病気と診断し、本当に病気ではない症状を病気と判断しないことができる診断技術を開発することは不可能だとされるため、完璧な診断技術というものは存在しない。だが、病院に診察を受けに訪れる人々は検査をしてもらえば病気か否かを判断することができると考え、病院側もそれに依って検査を行う場合が多いだろう。

## 2. インフルエンザの治療と診断の実態

この典型例がインフルエンザである。インフルエンザか否かを診断するに当たっての検査については不正確な部分を残したままである。例えば、インフルエンザの診断については大きく分けて三種類の診断技術があるが、その三つ全てに該当するインフルエンザと思われる症状は57%に留まる。また、一般の診療所でも利用されている迅速診断キットはインフルエンザでない症状をインフルエンザと判断する可能性が20%もあるとされる。つまり、インフルエンザでない症状にまで診断を行っている危険性が日本の医療にはある。インフルエンザと診断された症状に対してはタミフルの投薬がなされるが、日本は諸外国に比べてその使用が多く耐性ウイルスの増加を誘発している。このように、治療に当たっては病気に罹患しているかどうか不明な症状に対して治療行動を行い、それが新たな脅威をもたらしていると言える。

## 3. リスク社会と診断技術

人々が医師に対して診断をするように頼み、それに医師の側も応じる背景には現代社会の特徴であるリスク社会がある。リスク社会とは人々が不確実な危機に対して回避行動を行うことを日常的に意識することであるが、病気に罹るという危機に対して診断、治療という回避行動を行っているのである。リスク社会のはじまりは、一般消費者を危険から守ることを目的とする機関の設立や法整備という面から考えると1990年代後半からだということができ、その影響が医療の面にも及んでいると解される。医療事故に対する訴訟やタミフルの異常行動問題、との関係でインフルエンザ診断法は大きな位置を占めている。すなわち、インフルエンザの診断において見落としを後から追及されるという不確実な危機を回避するために医師は考えられる限りの診断を行い、疑いのある患者に対してはタミフルの投与を行うのである。それに伴ってタミフルによる異常行動も増えていると報道され、耐性ウイルスに対する危機意識とともに、人々は副作用としての異常行動にも危機意識を抱くこととなる。このように、危機に対処しているつもりが新たな危機を生み出していると言える。

#### 4. 新型インフルエンザと現代社会

新型インフルエンザの発生もこのリスク社会と現代社会のキーワードであるグローバル化との関係で説明できよう。グローバル化にはヒト、モノの大規模で高速のやり取りがあることから、日本から離れた地域で発生した新型インフルエンザも脅威となりうる。そのため、家畜から人に伝染した新型インフルエンザは世界的な脅威となりうる。同時に、情報のグローバル化がリスク社会と重なることで、人々の危機感を増幅させている。新型インフルエンザ発生の情報だけが人々に伝わることによってその情報に恐怖を感じて対策を行うが、不確実な危機への対策が果たして妥当なものか、はたしてそれが新たな脅威の発生につながっていないかについて考える必要があるだろう。

#### 5. おわりに

インフルエンザ、新型インフルエンザに社会が注目する背景にはリスク社会、不確実な恐怖を人々が日常的に意識をすることが背景にある。そして、新型インフルエンザについては情報のグローバル化が背景にある。現代社会の特徴であるリスク社会とグローバル化がインフルエンザに対する人々の意識を変えたということができよう。